

活動報告

JST さくらサイエンスプラン 「共同研究コース」8名の受け入れ(複数年交流)

勝又 美穂子

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業 極限環境対応グローバル接合部門 特任准教授(常勤)

2018年9月26日～10月16日の3週間に渡り、当研究所8度目となる、JST さくらサイエンスプランの支援による海外学生の受け入れを行いました。今回は国立台湾大学(台湾)から2名、モンクット王トンプリ工科大学(タイ)から2名、インド工科大学ハイデラバード校(インド)から4名、合計8名を招へいしました。本招へいはさくらサイエンスプランの「複数年」交流(3年間の交流)スキームを利用した、最終年度の入会でした。本交流では、毎年来訪する参加者の共同研究を通して、最終的に一つの大きな成果に到達することが期待されています。

3週間の滞在中、参加者はそれぞれ当研究所の田中研究室、近藤研究室、内藤研究室、伊藤研究室、西川研究室に配属され、アーク溶接に係る現象、複合材料、組織解析、低温ろう付け、などの研究に従事しました。

活動初日にはオリエンテーション及び本学吹田キャンパスの見学を行いました。また、開始3日目には当研究所施設見学、及び受け入れを行う各研究室の研究紹介などを行いました。最新機器が

揃う当研究所の施設見学では各機器の利用法や用途について活発な質問があり、熱心に施設見学を行いました。

10月15日(月)には当プログラムの最終報告会を開催し、各参加者は3週間の研究報告を行いました。当研究所からも受け入れた研究室教員の他、派遣元の大学における指導教官の参加もあり、盛況な最終報告会となりました。

実施後に受け取った参加者からのコメントでは、「日本の研究室では、先輩と後輩がペアになり機材の利用などを丁寧に指導しており、この方法を持ち帰って参考にしたい」、「日本人の礼儀と生活の規律正しさに感動し、自分も見習いたいと気が引き締まった」、「研究所の機材で研究欲が刺激され、また是非戻ってきたいと思う」など、多数のポジティブなコメントがありました。

今回の複数年交流は本年度で終了となりますが、この交流を基盤とした更なる国際協働研究への発展、及び来年度以降の新たな連携について引き続き検討したいと考えています。



最終報告会を終えて、集合写真